

III Volunteer for Oversea Students(Annual Report (2nd semester, 2017・1st semester, 2018))

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子, 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.14945/00026317 |

Ⅲ 留学生支援ボランティア

熊井 浩子／袴田 麻里

留学生支援ボランティアは平成14年度より活動が始まったが、30年度は12月現在で静岡キャンパス41名、浜松キャンパス45名、計86名となっている。静岡キャンパスでは、減少傾向が続いている。部局別登録者数は、以下の通りである。

| 年度 | 人文(社会科学) | 教育 | 農 | 理 | 工 | 情報 | 合計 |
|------|----------|------|-----|-----|-------|------|--------|
| 15年度 | 7 | 22 | 8 | 0 | 4 | 5 | 46 |
| 16年度 | 24 | 21 | 8 | 5 | 5 | 6 | 69 |
| 17年度 | 13 | 26 | 5 | 10 | 7 | 6 | 67 |
| 18年度 | 19 | 44 | 5 | 4 | 16 | 6 | 94 |
| 19年度 | 29 | 46 | 6 | 3 | 9 | 5 | 98 |
| 20年度 | 43 | 40 | 7 | 3 | 19 | 4 | 116 |
| 21年度 | 36 | 31 | 5 | 5 | 20 | 6 | 103 |
| 22年度 | 40 | 35 | 4 | 6 | 26 | 14 | 125 |
| 23年度 | 46 | 30+2 | 6+1 | 6+2 | 13+5 | 11 | 112+10 |
| 24年度 | 18 | 23 | 5+1 | 5 | 20+10 | 13 | 84+11 |
| 25年度 | 39 | 23 | 4+1 | 4 | 20+9 | 12 | 103+10 |
| 26年度 | 37+1 | 24+1 | 1+1 | 4 | 23+4 | 23 | 112+7 |
| 27年度 | 28+1 | 20 | 2+1 | 6 | 23+5 | 25+1 | 104+8 |
| 28年度 | 21 | 20 | 0 | 5+1 | 26+6 | 27 | 99+7 |
| 29年度 | 14 | 14 | 3 | 4 | 16+4 | 17 | 58+4 |
| 30年度 | 20 | 10+1 | 4 | 6 | 20+3 | 22 | 84+4 |

* +の前が学部生、あとが大学院生である。総合科学技術研究科は専攻により集計。
+がないものは学部生のみ。

留学生支援の主な活動内容は以下の通りである。

1) 日本語教育支援

国際交流センターで行われている日本語授業に参加し、留学生の日本語学習を支援する。具体的には、会話の相手、討論会での意見交換、異文化授業への参加、留学生発表会の見学などがある。その他、授業外に日本語の勉強のサポートや会話のパートナーになってもらう例もある。

2) 生活支援

日本に慣れない留学生のために、日本の生活を紹介する。友人を紹介したり、街の中を案内したり、買い物を手伝ったりする。

3) 日本文化紹介

日本に関係することで、得意なこと、好きなことを留学生に披露する。特に、茶道や

書道、柔道や剣道、折り紙やあやとりなど、伝統的な日本文化を留学生に伝える。

4) イベントへの参加

国際交流センターで企画するイベントに主催者側または参加者側として参加する。

これらの支援活動は、留学生支援が必要となったり、交流活動があったりする場合、Eメールによって登録されたボランティア学生に直ちに連絡され、都合のつくボランティアが参加するという形をとっている。

静岡キャンパスでは、上記のような活動のほかに、例年通りサマースクール（6月下旬～7月上旬実施）で来日する留学生のために支援グループを募り、3週間にわたって交流活動を行った。毎年このサマースクールを経て、交換留学生として戻ってくる留学生もおり、ボランティアとの交流がその大きなきっかけとなるなど、非常に重要な活動となっている。特に今年度はリーダーが力を発揮してくれたため、非常に充実した活動となった。

また、11月と5月にはボランティア学生と留学生との交流会が開催され、交流を深めた。この他にも、会話パートナーや日本語授業参加など、交流が行われている。ただし、昨年同様、学内外での他の活動との日時のバッティング等もあり、活動によっては参加者が集まらないこともあった。新たな登録者獲得のための方策が必要であるといえる。

また、静岡キャンパスでは29年度に留学経験者が中心になって立ち上げたサークルに加え、これまでの留学生交流サークルが休止となり、30年度後期に向けてボランティア学生を多く含む形で新たな活動へと進化すべく準備を行っているところである。このような活動との連携や交通整理も不可欠である。

浜松キャンパスでは、日本語学習支援は昨年度に引き続き少なかったが、留学生からの希望を受けて会話パートナーとして4名が活動した。交流イベントの企画・参加は、非常に活発に行われた。バーベキューやスポーツ大会など学生自身が企画し、交流を深める機会を作った。特に、2018年前期は、学部1年生の留学生3名と日本人学生10名が、先輩のボランティア学生とともに、1年生企画として、10月入学の留学生を対象に歓迎会（10/20）を計画した。何をするのか、どう進めたらいいのかなど迷いながらではあったが、無事25名の会を実施することができた。ただ、留学生歓迎会であったにもかかわらず想定よりも留学生の参加が少なかったことが課題である。このように留学生と日本人学生との交流活動が行われているが、日本人学生が企画しても、なかなか参加者が集まらないことは以前からの課題である。これは、留学生の都合や好みを把握できていないこと、イベント実施に注力し、交流を深める方向へ目が向かないことが原因であろうと思われる。何のために企画するのかは指導する必要がないと考えていたが、今後は留学生のニーズを聞き取ることなど適宜アドバイスしたいと思う。

両キャンパスともに、今回も、ボランティアの活動をきっかけとして留学に興味をもち、交換留学・ILUNO・VSCPなどの大学プログラムその他で留学する学生も多く、反対に、留学後に支援ボランティアに加わるケースもあった。国際連携推進機構でも、この活動が次のステップへと結びつくよう、国際交流イベント・留学プログラム等の情報提供等を積極的に行って支援している。